

楽06-58

「芸能生活60年 三代目桂春團治 極付十番落語会（2006 年）」

★★★★★

2006（平成18）年4月6日鑑賞

<ワッハホール>

桂蝶六 演目『蝦蟇（がま）の油』

桂福楽 演目『京の茶漬け』

桂文珍 演目『御神酒徳利（おみきどっくり）』

～中入り～

桂昇蝶 演目『犬の目』

桂春團治 演目『親子茶屋』

<春團治師匠はさすが・・・>

芸能生活60年を迎えた76歳で、「十番落語会」をやるのは大変なこと。そんな三代目春團治師匠の今日のネタは『親子茶屋』だが、それはこんな噺だ。

息子が「遊び人」なら、普段は厳格で、息子に小言ばかり言っている頑固オヤジも、実は一皮めくればそれに輪をかけた「遊び人」……。ある日、難波新地で老人が「年寄りの隠れ遊び」をしていたところ、そのにぎやかさを聞きつけた放蕩三昧の若者がこの店を訪れることに……。そして「料金を半分持たせてもらうから一緒に……」というこの若者の提案に、老人がオーケーしたから、さあ大変……。さて、2人の鉢合わせは……？

何回も聞いて知っている話だが、それを春團治師匠は淡々と……。さすが、と思うその芸に感心しきり……。

<桂文珍は最高！>

今日1番面白かったのは、桂文珍の芸。いつから本題の噺に入るのかなと思うほど、「つかみ」の話を面白おかしく続けた後、本日のネタである『御神酒徳利（おみきどっくり）』に。この噺は次のとおりだ。

馬喰町（ばくろうちょう）にある旅籠（はたご）屋が、家宝として大切にしていた御神酒徳利が失くなったために大騒動。出入りの左官が、大きな水瓶の中にこれを放り込み、それっきり忘れてしまったためだ。大騒ぎの中、水瓶のことをハッと思い出した番頭……。しっかり者の女房から早く報告に行けとケツを叩かれた左官は、にわか仕立てのソロバン「占い」をやることによって、見事に御神酒徳利を「発見」……。そんな「占い」の大家がいるとの話が伝わると、さっそく次の「失くし物」を探してくれとの丁重な依頼が……。さて、にわか占い師さんはどうなるのだろうか……？

それまでの桂蝶六と桂福楽の2人の芸は、クスクスと笑っていた程度だったが、この文珍の噺には何度も大爆笑。さすが桂文珍と、春團治師匠以上に感心……。

2006（平

成18）年4月13日記